

第1回学校運営協議会

平成30年6月19日

1. 学校長挨拶

今年度より学校運営協議会と名称・内容が変更された。

学校経営計画の承認や人事に関する意見もお聞きするという内容が増えた。

またメンバーも大きく変わっているが、昨年まで同様、活発な意見をお願いしたい。

2. 委員紹介

各委員よりご挨拶ののち、会長に大塚委員、副会長に田積委員を選出。

3. 今年度の取組みについて

(1) 学校経営計画（校長）

住吉高校はパイロット的な内容を求められる学校である。中期目標・年度目標をお示ししているが、内容には数値目標も求められている。今回は学校経営計画には、担当教員・担当分掌・担当委員会を記載したものを資料として配付した。主な内容としては、「骨太の英語力」は事業としては終了したが引き続き内容は一部継続している。カリキュラム研究・ルーブリックの研究なども行っている。生徒には英語で質疑できるレベルの養成をめざしている。国際感覚の育成、マナー教育（遅刻を重点的に）、そして「チーム住吉」として、とりわけ住吉改革委員会の推進を行っている。SSH 推進体制および支援ネットワークの活用。研究授業を活性化する。

(2) 進路指導

進路部会の充実を行っている。入学時には高い国公立大学進学希望者が学年進行とともに徐々に減少するという傾向は依然として存在するが、それに対して様々な取組を行ってきた。その結果、国公立大学希望者の増加がみられる。今後も生徒が主体的に進路実現をできるように、取り組みを進めていきたい。

(3) 国際文化科の取組み

TOEFL 仕様の授業は Super English Teacher で深化した。今後とも TOEFL の取り組みを続けるが、ICT の機器に課題もある。Super English については1年生20名2年生19名でスタート。

TOEIC 講習は8年前より実施を続けているものである。GTEC を全員受験しているが、今年度はスピーキングも行い、4技能の判定ができるようになる。新テストに向けての取り組みでもある。

国際交流関連としては世界で通用する語学力を身につけるため、学んだことの実践の場として、海外研修・国際交流事業受入れが機能している。オーストラリア・シアトル研修については、事前学習を開始したところ。モチベーションを高めるしくみの構築をめざす。ユネスコスクールとしては、ネットワークとしての取組みと本校独自の取組みがあるが、本校独自のものは、総合の時間を中心に行っている。

（４）総合科学科の取組み

理数・数学を習熟度別、理科を少人数による授業が本校の特色。

SSH は３期の指定となったが、これまでも増して、課題研究の質の向上が望まれる。

基礎はこれまでの２期で完成できたので、科学に関わる海外研修をこの期の中で実施する予定。

（５）生活指導

遅刻指導、自転車マナー向上、挨拶運動を行っている。１年にロッカーキー配付。スマートフォンに関する制限の必要性を検討中である。

（６）住吉改革委員会

①授業改善 阪南中学との教員の相互見学を昨年度実施

②行事の見直し 目的・意義を明確にしながら行事の精選をめざす。

③授業での ICT 活用 教職員の ICT 活用（職員会議でのペーパーレス化の推進）住吉掲示板の活用

④広報の強力な推進

新カリキュラム検討委員会も始動した。

４．質疑、協議（質問：A 回答：A 意見、提言：O）

なお、協議内で学校経営計画の承認を行った。

Q：目標がはっきりしているので生徒のモチベーションは高いが、進路意識は低いのか？

A：残念ながら進路意識は低い傾向が感じられる。

O：活動の経験から進路意識を育てるのは大切だ。ただし進路実現には学力は必要。

Q：入学時に理系文系に分かれている影響では？

A：一部の生徒はさまざまな事業に大いに参加し、進路につなげた者もいる。

A：SSHの進路への活用はごく一部である。その点を今後はぐくみたいのでそこが課題。

O：住吉高校として国公立進学への取り組みは成功している。３年生になると予備校等の指導を受ける生徒も増え、高校だけの進学指導ではなくなる時期ではある。

A：外からの情報を生徒に伝える取り組みはすすめている。

Q：学校での活動を入試に利用する方向が一部にみられるが、どうか？

A：求められるものが千差万別なので、学校外の証明書が必要な場合もある。

A：情報収集はしている。また振り返りそのものが学習の効果への寄与があるのではと思う。

Q：古い情報がWebに残っているので、魅力あるページにしていくべきでは。

A：ブログの容量もあるが、多くの先生でアップする体制にはなっている。

創立１００周年は２０２２年であるが実行委員会の立ち上げは現在進行中である。

A：基本的に本校へ入学者のいる全中学校に、説明会等の案内を郵送で行っている

O：今年の体育祭は穏やかだったが、のびのびする部分のはのびのびと、もっとメリハリをつけてもいいのでは。生徒を縛るよりも導き・自律が必要では。

Q：遅刻はなぜ減ったのか。

A：入室許可制度の導入が効果的であった。

A：標準服の導入、頭髪、スマーとフォンへの取り組みもある。

A：生徒の変化としては、SSH等、今年度はイベントへの参加が少ない傾向にある。

Q：生徒はさまざまな行事などで恵まれている。入学の目的は何か、またそれが進路選択につながっているかも大切。中学でのキャリア教育は高校でどう接続されているか？

A：SSHについて言えば、熱心に取り組む生徒は心が大いに動かされているといえる。

Q：目標が定まっていないのでは？ 価値観も多様化している。

A：アプローチが難しいが、あえて進路目標を設定しないのもありかとも感じる。入学時に文理は決まっている学校である。

Q：社会の問題として、学んでいることと将来の姿が結びつかない点がある。大学入試が目的となっていないか？

O：そもそも子どもは興味が短期的なものであり、すでに職業を持っているおとなと同じような目的意識を持てるわけではない。現在進められているOECDの取り組みは文科系ではない。

Q：やりたいことが多いが時間的制約がある。そのバランスは？

A：教育委員会では働き方改革が進められている。新しい取組も始めるが、何を削るかという視点も必要。部活動指導等、「生徒のために」という状況があり、教員は早くは帰れない。

O：中学校では勤務時間外は電話応答装置を使用しているが、これなども勤務の軽減の方法のひとつである。

Q：部活動のガイドラインや出勤・退勤時間についてはどうか？

A：府立学校は勤務時間の把握はできている

O：この会議をそういう取組も含んだ協議会の場としてはいかがかと思う。

Q：教育委員会からは、学校に対し数値目標が求められているのか？

A：そうなっている。また、さらに明確にする必要が求められている。

5. 今後の開催日程

第2回 10月29日～11月2日の間を予定

第3回 2月21日～26日の間を予定

謝辞

多くのご意見をいただいた。楽しく成長できる生徒を育成する学校を今後ともめざしたい。